炭労の闘いを職場で地域でガッチリ守ろう!!

安保改定阻止・炭労首切り・失業反対 據点第三次統一行動を成功させよう!!

大牟田に七万人が結集

九州拠点ブロック共闘会議はさる十月二十八日福岡県教育会館にて戦術会議を開催、とくに拠点としての統一行動を検討、いまきびしく闘われている炭労日鉄二瀬と三鉱労組の企業整備反対闘争が日本の全労働者の闘争に及ぼす影響は非常に大きく、このなりゆきの如何は、調印を目前にした安保改定反対闘争をも左右するという展望に立つて、次のような具体的な行動を決めた。

十一月七日據点分科会

「失業反対、企業整備反対の共闘強化について」田川、飯塚、八幡、佐賀などに約五千名を動員して分科会を開く、大牟田地域分科会に対する各県動員数は福岡六〇〇、佐賀三〇〇、熊本五〇〇、長崎一〇、その他の県評四〇、中央単産一〇、合計一四六〇名で大地評傘下の単組はこの外に各単組独自で動員に参加して交流を深める。

八日據点総決起大集会

指名解雇をひかえ最重要段階に突入する三鉱労組の闘いを勝利させるために大牟田で総決起大集会を開催する。

動員の規模は、約七万人（福岡県六三、〇〇〇人、佐賀県一、二〇〇人、熊本県一、〇〇〇人、長崎県三〇〇人、山口県一二〇人、中央単産とその他の地評三〇〇人）大地評はメーデー以上の動員をする。

場所＝大牟田市記念グラウンド

時間＝正午より。

なお、この大集会には中央より総評の太田議長、炭労の原委員長、社会党の浅沼書記長も激励にくることになつている。

拠点大牟田で開催されるこの大集会を成功させ、闘争を勝利させるために、組合員はもちろん家族も残らず参加しよう!。

首切り撤回まで戦術強化を図り炭労全体闘争を進める

私たちの仲間から資本家のいけにえとして紙屑のように社会にほうり出された人々は、黒い谷間と呼ばれる失業者の群れ流れ込んでいる。これら不幸な人々は食もなければ職もなく、生死の境を往来しているのが実情である。黒い羽根運動は全国民的に発展し世論として政府の石炭政策の失敗について、そのほこ先を向けつつあるが、彼等は自らの責任を省みようとしないばかりか、石炭斜陽宣伝のマス・コミをますます強くし、炭労の首切り合理化反対闘争に対する統一闘争切り崩しにやつきとなつている。

杵島闘争の成果に対し、石炭経営者は、「杵島の経営者は資本家の風上にもおけん」と激怒したということだが、彼ら資本家の絶対的使命が労働者の首を切ることによつて、少しでも多く儲けようと意図していることは明らかである。既報の通り中央における団交経過にみられる通り、いよいよ決戦の時期を迎えつつあるが、この機に至つて中闘委員会は指令第一二六号をもつて炭労全体としての闘う方針を決定した。

一、今後の闘争（企業整備と期末手当との結合）の基本的組み方。

(1) 今次期末手当は新長期計画にもとづく企業整備の背景と分離しては考えられない。

(2) 期末闘争は従来の経験からして、時期切迫とともに闘争体制に影響を与えていたが、長期闘争の決意と体制を確立し、今次闘争では期末、企闘を一本化した戦術展望にたつて戦術の行使をはかる。

(3) 期末手当および企業整備を結合し、十一月十七日以降実力行使を行い、戦術価値のつみ重ねを通じつつ闘争体制をかため、目的達成をはかる。

二、全体闘争体制の確立と重点指導態勢の強化。

敵の攻撃体制は質量ともに強烈なものがあるし、三井にしろ三菱にしろ日鉄二瀬にしろわれわれの闘いは今や個々の闘争として存在しなくなつた。従つて今次闘争は全般的視野にたつて闘いを具体的に指導し進める必要があるので、各地方本部ごとに特別指導オルグ団を設置し、闘争指導の強化をはかる。

(2) 具体的闘争のすすめ方

1、現在企業整備反対のため実力行使決行中の三鉱連および二瀬支部は現在実施中の戦術をそのまま継続する。

ただし、三鉱連傘下支部の実態は一様ではないが、企業整備反対闘争の基本方針にもとづいて統一行動の原則にたつて闘いをすすめる。

2、会社側の指名解雇実施の時期などの諸情勢を検討し、三鉱連の全体闘争をもつて対決するという基本的立場で戦術強化を行う。

3、三菱をはじめ各企業連は期末手当並びに支部独自の要求をかかげ、十一月十七日以降統一闘争として具体的戦術を行使する

4、戦術についての基本的考え方

企業連、支部が独自の力を炭労全体の結合された力として組織し、企業整備の撤回、企業格差の排除など、目的達成をはかるため全体闘争としての戦術を採用する。

一二六号指令について

一、三鉱連傘下各支部および二瀬支部は別途指令するまで現在のストライキを実施せよ。

二、十一月十三日一番方より二十四時間ストライキを突入せよ。

三、十一月十七日以降次の通りストライキに突入せよ。

1、闘争指標

企業整備完全撤回及び期末手当完全獲得（二十七日は安保反対を含む）

2、突入支部（三社連、三鉱連傘下支部、二瀬支部、中小支部）

3、ストライキ突入の時期、規模方法。

イ、十一月十七日各番方昇坑時一時間五十分の時限ストライキ。

ロ、十一月十七日以降別途指令するまで一斉一時間休憩を完全に実施せよ。

4、十一月二十日各番方昇坑時一時間五十分の時限ストライキ。

5、十一月二十四日各番方昇坑時一時間五十分の時限ストライキ

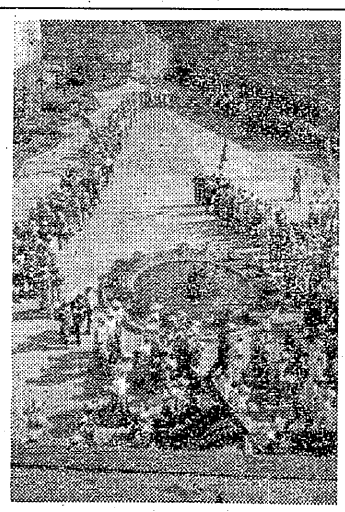
5、十一月二十七日一番方より二十四時間ストライキ。

十二月一日以降の戦術については別途中央闘争委員会が指令する。

うづまきデモの中で 東圧＝第四波スト通告

日本経済新聞も報じているようにアメリカ鉄鋼ストにより、その廃ガスを利用して生産していたテ系肥料は、生産ストップ、つづいて世界的な品不足になりつつあり、そこで日本に肥料の引合いがさつとうしつつあると報じている。十一月、十二月に三国、インドと引続き大量国際入札が予定され、この入札で相当量の落札が見込まれ明るい見通しが立つているにもかかわらず、団交における会社主張は一苦しい」「シンボウしてくれ」の一点ばりであり、第三波の実力行使による打撃にもかかわらず会社は解決を開こうとしない態度・八〇〇円を支給し、第一線現場労働者には何等暖い手はさしのべられていない。

従つて組合では、来春を期して大巾な賃上げを要求し、苦しい生活を続けている組合員の切実な願いを全国的にくりひろげられる春闘の中で闘うことになつた。



大浦総決起大会のデモ

退職金増額要求で無期限重点スト

煉三

【三煉】派職金増額闘争は十月いつぱい、おそくとも十一月始めごろまでには収拾してゆくとの基本方針にもとずき、金闘大手傘下六企業連（三菱、三井、住友、同和、古河、日鉄）は、十月十四日の第十一回金闘会議決定に従い、二十日の第二波（二時間時限スト）を

職場給改訂に終止符

【電化】　三十四年の労働協約改定期（三月）にあたつて、組合は賃上げに代るものとして「能率奨励金」の改定を要求、以来数回にわたつて交渉が持たれて来たが、会社は回答を延期し続け難航した交渉も、九月中旬に至り遂に妥結のやむなきに至つた。

妥結内容次の通り。

1、現行能率奨励金のその一部を固定化する。

2、試傭工三三〇円、工員四〇〇円、班長四七〇円、組長五四〇円、職長六一〇円、職員六八〇円、職員見習五〇五円。

会社は全電化で優金の統一をはかるといいながらこの固定化は青海大牟田に限ると決定されている。一方、おひざもとの本社や本所工場には三信ビル手当として平均一

退職金＝二百万円 期手＝四万九千円を要求

染三

【三染】三染労組は、現在すでに退職金の額（三十年勤続で約二百万円＝現行約百四十万円）を会社に要求したたかつている。

すでに何回かにわたつて団体交渉を開き、この問題の解決に努力しているが、会社側は名古屋工場の水害被害などを口実にしては「この問題は今後導期にわたる検討を必要とする。またその後でなければ出せるか出せないかわからない」とケンもほろろで、まつたく話にならない。

組合員、特に年配層の組合員はこんどは絶対に上げなければ、といつた気質が強く、この闘争における・三％という圧倒的多数をもつて確立した。

なお、同労組は組合員一人平均四万九千円の期末一時金を要求した。

合理化の一手段

会社の勝手を配転問題化

【三染】　三染では、現在配置転換が問題化している。

この程会社は、また組合が十分諒解もしないうちに勝手に組合員を配置転換し、しかもところによつては従来組合員がやつていた職場から組合員を追い、そのあとに請負工を導き入れた。

このようなことは今回一回でないところから、これは明らかに会社の企業合理化の一手段だとして、組合では今後も会社側のやり方を追及してゆくことになつている。

前進

自からの確信を深めよう

「総資本」のねらいはまさに組合活動のイキの根をとめることにかけられている。

したがつて、われわれは組合活動家をねらう敵の「質的」なクビ切りを、絶対に許すことはできない。

それは、「完全雇用」や「入管採用」を頂点とする三鉱連闘争に結実された一つ一つの成果に示されているし、何よりも身近かな「職場の民主々義」の確立につくされているはずである。

総資本のねらい

社会主義には「クビ切り」はないが、資本主義である限り不況はじゆんかんしてやつてくるし、それをのり越えるためには「戦争」と「クビ切り」が当然とされて来た。これは歴史の示す事実である。

しかるに、「完全雇用」と「入管採用」を中心とする「経営刷新」を中心とする「経営刷新」を中心とする「経営刷新